

はらっぱ

令和7年1月24日
山形市立南沼原小学校
学校だより 第9号
文責：校長 石澤 友章



47日間の最終節スタート ～有意義なまとめと準備を～

令和7年が始まりました。子どもたちも教職員も、年末年始の休みを大過なく過ごすことができたことに安堵しております。

昨年この時期に起きた大災害は、まだまだ復興への道半ばであることを考えると、被災された方々へ心よりお見舞い申し上げるとともに、当たり前前の日常のありがたさをかみしめながら、目の前のやるべきことに精力を注いでいくことを心に刻んだところです。

今年の干支は「乙巳（きのと・み）」です。干支は、甲乙で始まる十干（じっかん）と十二支の組み合わせ。全部で60通りですが、その42番目になります。乙は十干の2番目で、植物の成長にたとえると「種子の殻を突き破り、芽を出す状態」を意味します。巳をあらわす「へび」はしばしば嫌われ者扱いをされがちですが、一方で脱皮を繰り返して成長することや、その生命力の強さから、「再生」「復活」「長寿」の象徴とされることもあります。子どもたちにとって成長の年となることを願うばかりです。

さて、3節は「次の学年の0節」と言われるように、今の学年の総括とともに次の学年の準備の期間となります。初日の全校朝会では「各学年の心の準備」について次のように話しました。



降り積もった雪で元気に遊ぶ子どもたち

- | | | | | |
|-----|---|-------------------------------|-----------------------|--------------|
| 6年生 | = | 中学校という新しい環境へ | やり残しのないように | 最後まで下学年のお手本に |
| 5年生 | = | 6年生からのバトンを受け新しいリーダーになる準備 | 6年生を最後まで見届けてほしい | |
| 4年生 | = | 高学年の仲間入り | 委員会活動などで学校全体のことを考える準備 | |
| 3年生 | = | 小学校6年間の振り返り地点へ | 下級生に教えることが増える | 自分の行動に責任を |
| 2年生 | = | 4月から新しい勉強が増える（社会、理科、総合、外国語活動） | 2年生の学習が土台 | |
| 1年生 | = | 4月には新しい1年生が入学 | 「せんぱい」になる準備 | |

また、47日間という、1年で一番短い3節を有意義なものとするポイントを以下のように提示しました。

3節を過ごすのに大切なこと

- ① **見つめる** ⇒ 「今の自分」 「なりたい自分・めざす4月の姿」
② **その姿に近づくためのめあてをたてる** ⇒ 行動にうつす あきらめずに続ける



その後校内を回ってみると、5年生の教室前に新年の抱負が飾ってありました。目を通してみると「〇〇ができるようになりたい」という言葉に加えて「みんなから頼られる6年生になりたい」「下学年に優しくする6年生になりたい」というまさに6年生0節を意識したなりたい自分・目指す4月の姿を表す言葉がたくさん見られました。子どもたちの言葉を信じ、今年度の有意義なまとめと準備を全職員で力をあわせて支えていきたいと思います。

本校の見守り活動が表彰されました！

去る12月26日、山形警察署長より「南沼原小学校子ども見守り活動」に対して感謝状の贈呈があり、岩瀬PTA会長が表彰式に参加しました。

これは、地域内のセーフティーサポーターズの方々の登下校時の見守りをはじめ、PTAによる下校時の見守りパトロールや地域内での安全確保の立哨など、子どもたちの安全・安心のために保護者と地域が一体となり行っている活動が高く評価されたものです。学校としても誇らしい気持ちと感謝の気持ちでいっぱいです。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



ウェルビーイングの向上に向けて

最近、『ウェルビーイング』という言葉をよく見聞きするようになりました。特に、教育の分野では、令和5年度から国の教育振興基本計画に盛り込まれ、それをうけて来年度からの山形県第7次教育振興計画（7教振）にも、その目指す方向として取り上げられています。『ウェルビーイング』の概念は次のように説明されています。

- 身体的・精神的・社会的に良い状態にあること
- 短絡的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福
- 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態であること

これまでは「将来の幸せのためにがんばる」ということが大切にされてきたように思いますが、今後は「今」が幸せで充実していることにもっと光を当てる必要があると考えられています。画一的な「幸せモデル」があるわけではなく、一人ひとりが「自分の幸せモデル」を作り、それを目指していく時代と言えるでしょう。そのためには、興味のあることに夢中になって取り組む体験が大切であると考えられています。また、すぐに夢中になれるものがなくても「学んでよかった」「努力してよかった」「自分が学んだことを使って他の人を幸せにできた」と思えるような経験を積み重ねることが重要だと言われています。まだ取りまとめの最中ではありますが、児童に対する教育活動アンケート（学校評価）の結果から、子どもたちの9割以上が「みんなと仲良く生活している」「楽しく学校生活を送っている」と感じているという結果を見て、とてもうれしく思いました。引き続き「今も将来も」幸せになれる学びを提供し、子どもたちが意欲的に幸せを求め続けられる教育、言い換えれば「夢」を持てる教育を進めていきたいと考えています。

ウェルビーイング構成5要素（ポジティブ心理学より）

